



GUI の使用方法

- [GUI を使用したレイヤ 4～レイヤ 7 サービスの導入 \(1 ページ\)](#)
- [GUI を使用したデバイス パッケージのインポート \(2 ページ\)](#)
- [GUI を使用した機能プロファイルの作成 \(2 ページ\)](#)
- [GUI を使用したレイヤ 4～レイヤ 7 サービス グラフ テンプレートの作成 \(5 ページ\)](#)
- [デバイスの変更 \(6 ページ\)](#)
- [GUI を使用したエンドポイント グループへのサービス グラフ テンプレートの適用 \(7 ページ\)](#)

GUI を使用したレイヤ 4～レイヤ 7 サービスの導入

GUI を使用して、レイヤ 4～レイヤ 7 サービスを導入することができます。次の順序で手順を実行します。

1. デバイス パッケージをインポートします。
[GUI を使用したデバイス パッケージのインポート \(2 ページ\)](#) を参照してください。
2. 機能プロファイルを作成します。
[GUI を使用した機能プロファイルの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
3. サービス グラフ テンプレートを作成します。
[GUI を使用したレイヤ 4～レイヤ 7 サービス グラフ テンプレートの作成 \(5 ページ\)](#) を参照してください。
4. デバイスを作成します。
[GUI を使用したレイヤ 4～レイヤ 7 デバイスの作成](#) を参照してください。
(オプション) デバイスを変更します。
[デバイスの変更 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
5. エンドポイント グループ (EGP) にサービス グラフ テンプレートを適用します。

GUI を使用したエンドポイント グループへのサービス グラフ テンプレートの適用 (7 ページ) を参照してください。

GUI を使用したデバイス パッケージのインポート

サービス グラフに基づいていかなる設定も実行する前に、適切なデバイス パッケージを Application Policy Infrastructure Controller (APIC) にダウンロードしてインストールする必要があります。デバイス パッケージは、所有しているデバイスと、そのデバイスで何が実行できるかを APIC に対して指定します。



(注) クラウド オーケストレータ モードを使用するデバイス パッケージを選択すると、簡潔なインターフェイスが得られます。クラウドオーケストレータモードデバイスパッケージは、Cisco APIC で自動的に作成されます。デバイス パッケージが誤って削除された場合、もう一度アップロードすることができます。クラウドオーケストレータモードの設定も参照してください。

ステップ 1 適切なデバイス パッケージをダウンロードします。パートナーのリストは、次の URL にあります。

<http://www.cisco.com/c/en/us/solutions/data-center-virtualization/ecosystem.html>

この URL は、適切なデバイス パッケージをダウンロードできる [Partner Ecosystem] ページです。

ステップ 2 プロバイダー管理者として APIC にログインします。

ステップ 3 メニュー バーで、[L4-L7 Services] > [Packages] を選択します。

ステップ 4 [Navigation] ペインで、[L4-L7 Service Device Types] をクリックします。

ステップ 5 [Work] ペインで、[Actions] > [Import Device Package] を選択します。[Import Device Package] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 6 [Browse...] をクリックし、使用するデバイス パッケージを参照します。

デバイス パッケージの作成については、『Cisco APIC Layer 4 to Layer 7 Device Package Development Guide』を参照してください。

ステップ 7 [Open] をクリックします。

ステップ 8 [Submit] をクリックします。

GUI を使用した機能プロファイルの作成

機能プロファイルはサービスグラフテンプレートにデフォルト値を提供します。次の手順で、新しい機能プロファイルの作成方法を説明します。

- ステップ 1** メニュー バーで、[Tenants] > [All Tenants] の順に選択します。
- ステップ 2** [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ 3** ナビゲーション ウィンドウで、**Tenant *tenant_name* > Services > L4-L7 > Function Profiles** を選択します。
- ステップ 4** **Function Profiles** を右クリックし、**Create L4-L7 Services Function Profile** を選択します。
- ステップ 5** **Create L4-L7 Services Function Profile** ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに適切な値を入力します。ただし、下で指定しているものを除きます:
- [Profile Group] ドロップダウンリストで、[Create Function Profile Group] を選択します。

プロファイルグループは、プロファイルをグループ化して整理するための機能です。たとえば、Web アプリケーション、レガシー アプリケーション、電子メール アプリケーション用に 1 つのプロファイルを作成することもできます。グループを作成し、そのグループにプロファイルを配置できます。使用可能な既存のグループがあるか確認します。存在しない場合は [Create L4-L7 Services Function Profile Group] ウィンドウでグループに名前を付け、説明を入力して新しいグループを作成できます。
- ステップ 6** **Create L4-L7 Services Function Profile Group** ダイアログボックスで、必要に応じて適切な値をフィールドに入力します。
- ステップ 7** [Submit] をクリックします。
- Create L4-L7 Services Function Profile** ダイアログボックスに戻ります。プロファイルグループは適切に作成され、保存されています。これは **Create L4-L7 Services Function Profile** ダイアログボックスに表示されます。
- サービス プロファイルを特定の機能用に作成します。[Create L4-L7 Services Function Profile] の [Device Function] ドロップダウンリストから選択した機能に対して、プロファイルを作成します。デバイス パッケージをインポートした後、ドロップダウンリストにはデバイス パッケージと、Application Policy Infrastructure Controller (APIC) で使用可能なサービス機能のリストが表示されます。
- ステップ 8** **Create L4-L7 Services Function Profile** ダイアログボックスで、**Copy Existing Profile Parameters** チェックボックスをオフにします。
- ステップ 9** **Device Function** ドロップダウン リストから、デバイスの機能を選択します。その機能に含まれる各パラメータと共に、オプションが表示されます。プロファイルはパラメータにデフォルト値を提供することを目的としています。
- (注) この時点では、パラメータに値はないので、追加します。追加する値がデフォルト値として使用されます。機能プロファイルは、これらの値を指定した後に、グラフ テンプレートで使用できるようになります。これらの値はデフォルト値としてグラフ テンプレートに適用されます。つまり、グラフ テンプレートを使用していて特定のパラメータに値を指定しなければ、APIC がプロファイルをロックアップし、値があるかどうかを確認します。値が存在する場合、APIC はその値を使用します。
- ステップ 10** **Features and Parameters** セクション (**Create L4-L7 Services Function Profile** ダイアログボックスの下) で、値を追加します。このセクションには 2 つのタブ、[Basic Parameters] と [All Parameters] があります。[Basic Parameters] タブには、パッケージに必須 (必要) とマークされたパラメータのリストが含まれています。**All Parameters** タブには必要なパラメータのリストと、高度な設定を行うためのいくつかの追加/オプション パラメータのリストが含まれています。**Basic Parameters** パラメータが公開されている理由は、それら

が基本設定の一部であり、管理者にはこれらを入力することが期待されているからです。**All Parameters** はオプションであるため、機能をカスタマイズしない限り、省略することもできます。

ステップ 11 (オプション) 次の手順に従って、クラウドオーケストレータ モード機能プロファイルを作成します:

- a) **All Parameters** または **Basic Parameters** タブでフォルダまたはパラメータをダブルクリックします。選択したフォルダまたはパラメータに対応する行が開きます。
- b) **Path from Schema** を指定します:

- フォルダのパスを指定する場合、**Path from Schema** カラムのドロップダウンリストには、可能なすべてのフォルダパスが一覧表示されます。スキーマ内でフォルダのマップ先になっているパスを選択します。
- パラメータのパスを指定する場合には、次の手順に従います:
 1. **Path from Schema** フィールドの編集アイコンをクリックします。**Manage Path-From-Schema** ダイアログが表示されます。
 2. **Specify Path-From-Schema** をクリックして有効にします。
 3. **Path** ドロップダウン矢印をクリックして、パスを選択します。
 4. パラメータ エディタで + をクリックして、ドロップダウンリストからパラメータを選択します。
 5. 完了したら、**Ok** をクリックします。**Create L4-L7 Services Function Profile** に戻ります。
 6. (オプション) 次のフィールドに値を入力します:
 - **Value** – 選択したパラメータのグラフを展開する際に、UI でデフォルト値が表示されるようにするには、ここに値を入力します。
 - **Hint** – グラフを展開する際、UI で値を入力するときに表示されるテキストを指定します。

- c) **Update** をクリックします。

ステップ 12 [Submit] をクリックします。
これで、機能プロファイルは作成・保存されました。

GUI を使用した既存の機能ファイルを使用しての新しい機能プロファイルの作成

この手順では、既存の機能プロファイルを使用して新しい機能プロファイルを作成します。

ステップ 1 メニュー バーで、[Tenants] > [All Tenants] の順に選択します。

ステップ 2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。

- ステップ3 [Navigation] ペインで、[Tenant */tenant_name*] > [Services] > [L4-L7] > [Function Profiles] の順に選択します。
- ステップ4 [Function Profiles] を右クリックし、[Create L4-L7 Services Function Profile] を選択します。
- ステップ5 [Create L4-L7 Services Function Profile] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。
- [Profile] ドロップダウン リストで、ベンダーが指定する既存のプロファイルを選択します。選択したプロファイルに基づいて、新しいプロファイルにパラメータが挿入されます。
 - 必要に応じて、この既存のプロファイルに変更を加えたり、パラメータを追加したりします。
- ステップ6 [Submit] をクリックします。

GUI を使用したレイヤ4～レイヤ7サービス グラフ テンプレートの作成

サービス グラフ テンプレートは、機能プロファイルを使用して提供可能な一連のレイヤ4～レイヤ7機能、レイヤ4～レイヤ7デバイス、またはコピーデバイスと、それらに関連付けられた設定です。サービス グラフ テンプレートは、レイヤ4～レイヤ7デバイスまたはコピーデバイス上およびファブリック上に「レンダリングされる」、または設定される契約と関連付ける必要があります。

始める前に

テナントを作成しておく必要があります。

- ステップ1 メニュー バーで、**Tenants > All Tenants** を選択します。
- ステップ2 作業ウィンドウで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ3 ナビゲーション ウィンドウで、**Tenant *tenant_name* > Services > L4-L7 > Service Graph Templates** を選択します。
- ステップ4 ナビゲーション ウィンドウで、**Service Graph Templates** を右クリックして、**Create a L4-L7 Service Graph Template** を選択します。
- Create L4-L7 Service Graph Template** ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ5 必要に応じては、1つ以上のレイヤ4～レイヤ7デバイスをまたはコピー デバイスを作成します。
- Device Clusters** ペイン (**Create L4-L7 Service Graph Template** ダイアログボックス) でドロップダウン 矢印をクリックして、**Create L4-L7 Devices** または **Create Copy Devices** を選択します。対応するダイアログボックスが表示されます。
 - ダイアログボックスに従い、ダイアログボックスに表示される適切な値を入力して **Next** をクリックし、完了するまで続けます。

(注) ダイアログボックス内のフィールドの説明については、右上隅のヘルプアイコンをクリックして、ヘルプファイルを表示してください。

c) 完了したら、**Finish** をクリックします。

Create L4-L7 Service Graph Template ダイアログボックスに戻ります。

ステップ 6 **Create L4-L7 Service Graph Template** ダイアログボックスに適切な値を入力します。

(注) ダイアログボックス内のフィールドの説明については、右上隅のヘルプアイコンをクリックして、ヘルプファイルを表示してください。

ステップ 7 (任意) (既存のサービス グラフ テンプレートを複製場合のみ) 複製したサービス グラフ テンプレートからノードを削除する場合は、ノードを右クリックして、**Remove Node** を選択します。

ステップ 8 サービス ノードを作成するには、**Device Clusters** セクションからレイヤ 4～レイヤ 7 デバイスをドラッグして、コンシューマエンドポイントとプロバイダエンドポイントの間にドロップします。コピー ノードを作成するには、コピー デバイスをドラッグ アンド ドロップします。既存のサービス グラフ テンプレートを複製し、それにサービス グラフ テンプレートに使用するすべてのノードが含まれている場合には、この手順はオプションです。

複数のデバイスをドラッグ アンド ドロップして、複数のノードを作成することができます。サービス ノードの最大数は 3 ですが、他のデバイスはそれ以上ドラッグ アンド ドロップできます。

コピー デバイスをドロップした場所が、データフローの中で、コピー デバイスがトラフィックをコピーする場所になります。

ステップ 9 1 つまたは複数のサービス ノードを作成した場合、レイヤ 4～レイヤ 7 デバイスごとの **device_name Information** セクションで、入力を完了してください。フィールドは、デバイスのタイプによって異なります。

(注) フィールドの説明については、右上隅のヘルプアイコンをクリックして、ヘルプファイルを表示してください。

ステップ 10 完了したら、**Submit** をクリックします。

ステップ 11 (任意) **Navigation** ウィンドウで、サービス グラフ テンプレートをクリックします。作業ウィンドウには、そのサービス グラフ テンプレートのグラフィック トポロジが表示されます。

デバイスの変更

デバイスを作成した後で、そのデバイスを変更することができます。



(注) デバイスを作成するか、または既存のクラスタにデバイスを追加するには、「デバイスの作成」の手順を使用する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、[Tenants] > [All Tenants] の順に選択します。

ステップ 2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。

ステップ 3 [Navigation] ウィンドウで、Tenant *tenant_name* > Services > L4-L7 > Devices > *device_name* を選択します。
[Work] ウィンドウにデバイスに関する情報が表示されます。

ステップ 4 **General** セクションではいくつかのパラメータを変更するコ音ができます。

Device 1 セクションでは、インターフェイスの追加、または既存のインターフェイスのパスの変更を行えます。インターフェイスを追加するには、+ ボタンをクリックします。パスを変更するには、変更するパスをダブルクリックします。

ステップ 5 パラメータを変更した後、**Submit** をクリックします。

GUI を使用したエンドポイントグループへのサービス グラフ テンプレートの適用

次の手順で、エンドポイントグループへのサービス グラフ テンプレートの適用法を説明します。

始める前に

次を作成しておく必要があります。

- アプリケーション エンドポイント グループ
- サービス グラフ テンプレート

ステップ 1 メニュー バーで、[Tenants] > [All Tenants] の順に選択します。

ステップ 2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。

ステップ 3 [Navigation] ウィンドウで、Tenant *tenant_name* > Services > L4-L7 > Service Graph Templates > *template_name* を選択します。

ステップ 4 [Navigation] ウィンドウで、EPG を適用する *template_name* を右クリックし、**Apply L4-L7 Service Graph Template** を選択します。

Apply L4-L7 Service Graph Template To EPGs ダイアログボックスが表示されます。レイヤ 4 ~ レイヤ 7 サービス グラフ テンプレートをコンシューマ エンドポイント グループとプロバイダー エンドポイント グループに関連付けます。

ステップ 5 [Apply L4-L7 Service Graph Template To EPGs STEP 1] > [Contract] ダイアログボックスで、適切な値を入力して契約を設定します。

- a) EPG 内契約を設定する場合は、[Configure an Intra-EPG Contract] チェックボックスをオンにして、[EPG /Network] ドロップダウンリストから EPG とネットワークの組み合わせを選択します。

- b) 標準契約を設定する場合は、該当するドロップダウンリストでコンシューマ/プロバイダー EPG とネットワークの組み合わせを選択します。
- c) [Contract] フィールドで適切なオプションボタンをクリックして、新しい契約を作成するか既存の契約を選択します。[Create A New Contract] を選択した場合、フィルタを設定するには、[No Filter (Allow All Traffic)] チェックボックスをオフにします。[+] をクリックしてフィルタエントリを追加し、完了したら [Update] をクリックします。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

[STEP 2]> [Graph] ダイアログが表示されます。

ステップ 7 [device_name Information] セクションで、赤色のボックスで示された必須フィールドを設定します。

(注) 優先グループ (契約なしのエンドポイント間通信) にコネクタを含めるには、[Service EPG Policy] ドロップダウンリストから設定済みポリシーを選択します。

ステップ 8 [次へ] をクリックします。

[STEP 3]> [device_name Information] ダイアログが表示されます。

ステップ 9 [Required Parameters] と [All Parameters] タブで、必要に応じてパラメータを設定します。

ステップ 10 [Finish] をクリックします。

サービス グラフ テンプレートがアクティブになりました。
